

年頭のご挨拶

クロマトグラフィー科学会会長 さいとよしひろ 齊戸美弘

クロマトグラフィー科学会会員の皆様、明けましておめでとうございます。クロマトグラフィー科学会第17期の会長を仰せつかりました豊橋技術科学大学の齊戸でございます。

クロマトグラフィー科学会は1989年の発足以来、クロマトグラフィー関連技術に特化した国内最大の学会として、学術集会の開催、各賞の授与、会誌の発行などの事業を継続しつつ、会員の皆さまとともに着実に歩んで参りました。

その中でも、過去10年間、浜瀬編集委員長の主導による会誌(CHROMATOGRAPHY)の発行プロセスの大幅な改善を実施してきました。著者自らが最終掲載形態の原稿を準備できるテンプレートを公開しており、迅速な審査が可能であることから、投稿から掲載までの期間が大幅に短縮されています。本会誌はJSTの学術論文公開プラットフォームであるJ-STAGE上でのオープンアクセス誌であり、掲載決定論文は、DOIの付与後、速やかにオンライン公開されます。また、このような取り組みを通して、会誌発行に係る経費の大幅な削減にも成功しています。一方で、学生旅費援助制度の創設、学術集会におけるポスター賞の授与など、今後の論文投稿者となり得る学生会員に対するプロモーションも積極的に展開しています。

学会事務局主導の改革も進めて参りました。2004年から2007年までの竹内豊英事務局長時代には、当時本学会の会員管理・会費収受事務を委託していた学会事務センターが経営破綻したことから、不完全な状態の会員名簿から名簿を復活させる必要が発生したものの、竹内事務局長の極めて献身的なご尽力により名簿を復活させるとともに、未回収債務の処理も行われました。その後、2008年からの4年間は大塚浩二事務局長の主導のもとで、会則等の諸規則の整備、会員管理・会費管理システムの合理化、会誌・学会要旨集の見直し、記念事業積立金の拡充などの大幅な改革が実施されました。小職が事務局長を仰せつかっていました2012年からの8年間には、主に上述の会誌の改革のほか、会費収納率の改善、維持会員の拡充、経費削減等に取り組んで参りました。現職の北川文彦事務局長にも、このような精神は受け継がれており、会員の皆さまへの負担を増やすことなく、一層高いサービスを提供するべく、現在も努力されています。会員の皆さまにおかれましては、このような取り組みへの一層のご理解を賜りたく存じます。

昨年には、これまで本会の褒章として授与してきた学会賞、奨励賞、学術特別貢献賞、功労賞に加えて、特別栄誉賞を設けました。この賞は、本会に対する貢献が長年にわたり極めて大きく、特に本会の運営において顕著な貢献が認められる会員に授与する、いわば本学会において最高位に位置する賞であり、2021年は竹内豊英先生が受賞されました。

新規事業への取り組みのひとつとして、今年度より次世代技術セミナーを本会の主催事業化しています。また、従来から開催してきたシンポジウムおよび科学会議においても、若手招待講演等を拡充させることにより、学生会員ならびに若手正会員へのインセンティブを増やす努力も始めています。更に、第17期では、理事、監事、評議員への若手研究者の積極的登用も実施しています。

2022年度は、第29回シンポジウムを沖縄県石垣市（浜瀬健司実行委員長）において、第33回科学会議を東京の北里大学（加藤くみ子実行委員長）において、それぞれ開催する予定です。これからの2年間は、浜瀬副会長兼編集委員長、北川文彦事務局長をはじめ、理事・評議員の皆様とともに、本会の益々の発展のために微力ながら精一杯努力して参ります。どうか会員の皆さまのより一層のご支援ならびにご協力を賜りますようお願い申し上げます。